

女性の生き方への応援メッセージ

☆きらり輝いて☆

日本で女性問題解決の取り組みが始まって30年、男女共同参画社会基本法ができて8年が経ちました。この間、女性たちの生き方は大きく変わりました。さまざまな女らしさに縛られて、自分の思いや願いを後回しにしてきた女性たちが、ようやく自分の意思に基づいて自分が望むような生き方(自分らしく生きること)ができる社会になってきています。

でも、実際には、自分らしく生きることはそんなに簡単なことではありません。自分らしく生きるためには、まず何より自分と向き合う勇気が必要です。そして、親や夫、子どもなど身近で大切な人たちに自分の思いを伝える勇気が必要です。自分に向き合い、大切な人に自分の気持ちを伝えること、この二つは簡単なようで実は最も難しいことだと思えます。特に、「女は、自分よりも周りの人たちの気持ちや都合を優先して生きるのが当たり前」という環境の中で生まれ育った女性たちにとっては、自分の本当の気持ち(意思)に気づいたり、それを周りの人に表明したりすること自体、大変な努力と勇気が必要です。



佐藤 恵子さん

- 青森県立保健大学社会福祉学科准教授(専門分野は女性学、女性福祉など)
- 青森県男女共同参画審議会会長
- 青森県あおもり女性大学講師
- ViC・ウーマン認定委員

久野さんと脊戸さんは、この二つのハードルを見事に乗り越えて、自分らしい生き方を実践されているお手本のようなかたがただと思います。お二人の素晴らしさは、今ご自分がいるところから出発していることです。久野さんは農家の嫁として、脊戸さんは生花店の跡継ぎとして、さまざまな期待や制約がある中で、悩み苦しみながらもあきらめず、自分が生きて大切な人たちと暮らしているその場所で、自分らしい生き方を目指して活動されてきました。それが、周りのかたがたの意識や生き方まで変え、明るく元気な地域づくりにつながっているのだと思います。

女性が自分らしく生きることが、家族や地域を明るく、元気に、生き生きさせ、みんなを幸せにする。これこそが、わたしたちが目指す男女共同参画社会のあり方です。

今でも、さまざまなハードルを前に、我慢したり、あきらめたりしているたくさんの女性たちに、久野さん、脊戸さんと一緒にエールを送ります。

「自分らしく生きることは素晴らしい。勇気を持って一歩踏み出そう！」

(有)田島生花店専務 脊戸 潤子さん

花の甘い香りが広がる店内で脊戸さんは、赤、白、ピンクの花々を愛おしむようにアレンジメントしています。



◆秘めたる想いは行動へ…

花屋に生まれ、花があつて当たり前前の環境の中で育つたため、花の専門学校へ進むことも、将来は店を継ぐことも当然のことのように思つて歩んできました。しかし、「店を継ぐ」という気持ちだけで花に触れていいのかが、それだけで自分の一生は楽しいのか。夢や思いを伝え心を届ける『花』なのに」と、いつしか悶々とする日々が続きました。

今では、『花』を通じていろいろな人たちと出会い、いろいろな経験をすることができ、そのたびにドキドキワクワクする心地よい感動を味わっています。これからも花のデザインの勉強を積み、感性を磨き、挑戦する心を失わないようにしたい。花屋という職業に誇りを持って仕事ができることに感謝しています。

中央商店街の活性化を目指す「十五市」広告



ときどき新聞の折り込みで、見かけませんか

い」と引き継いだものです。中央商店街の温かいイメージを伝えていきたいと、手書きでおしゃれな手作り広告を目指しています。

さらに、中央商店街振興組合からの依頼で、街の情報誌「ちょこっと」の創刊に向けて、編集スタッフの一員としても活動し、昨年12月に発行しました。「もっと十和田を好きになる」をコンセプトに、女性のための編集スタッフのパワーはものすごいものでした。ものを作り上げる楽しさと人との出会いは、とても良いエネルギー源になっています。

「秘めたる想いは、秘めたままにしておくのではなく行動へ。一歩行動に踏み出す勇気こそが、生き生きと自分を表現する活力源となるのでは…」と、しっかりと語ってくれました。